

令和5年度 東京都医ケア児等コーディネーター養成研修報告

概要	研修名	東京都医療的ケア児等コーディネーター養成研修
	プログラム	オンライン講義、まとめ演習（計画作成・事例検討）2日間
	実施目的	地域において医療的ケア児等への支援を総合調整する コーディネーターを養成するための研修
	受講対象者	相談支援専門員、保健師等、今後、地域において医療的ケア児等の 支援を総合調整するコーディネーターの役割を担う予定のある者 で、都内事業所、都内自治体に所属する者。

【オンライン講義からの学び】

- 医ケア児コーディネーターとは、以下の役割を果たすと示されていました。
- ・医療的ケア児等に対する専門的な知識と経験に基づいて、支援にかかわる関係機関との連携を図り、本人の健康を維持しつつ、多職種が包括的にかわり続けることのできる生活支援システム構築のためのキーパーソンとしての役割
 - ・地域の関係機関との連絡調整、支援の進捗状況の把握と評価、それに基づく地域課題検討のための協議の場づくり
- 医ケア児コーディネーターに求められることとしては、以下のとおり示されておりました。
- ・本人、家族の思いを中心とした、関係者間の繋がりを強化していくこと
 - ・本人、家族の思いを捉えそこに向かうためのチームとしての役割を果たすこと
 - ・課題解決に向けた具体策を出していくこと
 - ・本人や家族が将来に向かう視点を持つことができるように、中長期的な目標を示しながら伴走者として関わっていくこと
- このことから、本人、家族のニーズを捉えながら関係機関の方々と連携していくことの重要性を再認識いたしました。
- 本人と家族の支援において重要なこと
- ・本人と家族の意思決定支援を関係機関とともにやっていくこと
 - ・本人や家族がどんな支援を必要としているか、聴き取りだけでなく日常の何気ない会話もヒントにしながらアセスメントすること
 - ・単にサービスだけを羅列する押し付けではなく、本人と家族が自ら決定し行動できるよう援助すること
 - ・兄弟姉妹の思いもしっかりと捉えていくこと

・関係機関とは、できないことを言い合うのではなく、できることをみつけていく姿勢で連携すること

○実際に医ケア児の相談支援をされている講師の方々のお話は大変参考になりました。当事者家族でもあり相談支援をされているかたの、「一緒に考えてもらえること、寄り添ってもらえることが力になる」という言葉が印象に残っています。

【演習からの学び】

2日間の演習では、実際に関係機関の方々と顔を合わせながら、事例についての支援を考えていくグループワークを行いました。

用意されたシートを使い、

- ① 本人と家族がどのような状況かシートに落とし込み全体像を把握
- ② 本人が好きなことや嫌いなこと、夢や希望、家族の希望などを話し合いシートに落とし込む
- ③ ②の作業で捉えた本人や家族のニーズ、将来的な目標を、中長期的な見通しをもって将来に向かって時系列で考えていく。その際に、本人の状況や医療の経過、療育や発達の経過、サービスの利用状況なども一緒に検討していく。

という作業をしました。

○このケースはどういう方なのか、どんな家族関係なのか、こんな希望があるのではないかと、将来にこのような可能性があるのではないかと関係機関の方と一緒に考える時間が大変楽しかったですし、日々関係機関の方がどんな支援をされているのか、どのようなことで悩まれているのかを聞けたり、自身の職場だけでは知りえなかった情報を得られ、顔を合わせて情報共有をできる貴重な時間を過ごしました。

○演習の中で、本人と家族のニーズをとらえながら中長期的な目標を設定し、例えばこのケースは将来的に就労を狙えるのではないかと、などの将来の見通しをもって支援をおこなうことが大切、と繰り返し教えていただきました。

そのためには多職種でアイデアを出し合いながら、将来の目標に近づけるには今どのような支援をおこなっていけばよいか、具体的にどう本人と家族に関わっていけばよいかを都度検討していくことが必要と思います。

合わせて、医療の見通しをもつことや兄弟姉妹のケアの視点をもつこと、本人と家族の意思表示のサインを見逃さないこと、支援の評価を適宜おこなっていくことも重要と教えていただきました。

【今後に向けて】

○今回の研修では、本人と家族の支援について重点的に学ばせていただきました。研修での学びに加えて、関係機関の方と顔を合わせ情報共有できたことが大変貴重な経験でした。

地域のコーディネーターまではまだまだ実力が及びませんが、まずは個別の支援に丁寧に向き合いながら関係機関の方々とつながらせていただき、そのつながりを大切にしながら地域に貢献していきたいと思っております。